



どうにかする力

泗水小学校だより
R5. 2. 9(木)
No. 45
校長 工藤竜一



泗水小学校
ホームページ

【校訓】なかよく つよく しんけんに

【学校教育目標】自立する泗水っ子の育成

～「生きる力＝どうにかする力」を育む教育活動を通して～

2月読書月間の取組～絵本作家よしながこうたく氏「ワークショップ」開催！～

2月は泗水小読書月間です。その取組の一環として、菊池市中央図書館のご協力により、7日（火）に福岡在住の絵本作家よしながこうたく氏を本校に迎えて、3年生児童が参加してのワークショップが行われました。よしなが氏は、「給食番長」「飼育係長」「あいさつ団長」など学校を舞台にした絵本の著作で知られ、全国各地で読み聞かせライブを精力的に行っておられる作家さんです。

当日は、3年生をひきつける楽しいお話や「給食番長」の読み聞かせをしていただきました。後半は、泗水小のキャラクターをデザインしようということで、真っ白な広用紙に3年生のイメージした色や形を自由にさせながら、キャラクターを完成させました。本当に楽しい活動の連続で、時間がたつのも忘れるほどの2時間でした。



絵本「給食番長」の読み聞かせの様子

なお、よしながこうたく原画展が3月8日まで中央図書館、泗水図書館で開催中です

読書月間中…充実の図書室の様子です！

本校の児童一人あたりの1ヶ月の図書の貸し出し冊数は、昨年度の4.8冊から、今年度6.7冊まで増加しました。児童が行きたくなる図書室、手に取ってみたいくなる蔵書のレイアウトなど大変充実しています。ご家庭でも、家族で読書の時間を設けるなど、本に親しむ児童の育成にご協力をお願いします。



泗水小のキャラクターをデザインしています



よしながこうたく氏の絵本を集めたコーナー



「むかしばなし」もたくさんあります



充実の「あたらしい本コーナー」



干支(えと)の森コーナー

☆校長室から独り言42☆

道徳性を育てるという視点で子育てを見直す

文部科学省が学校の教育課程の基準を示した学習指導要領には、「道徳性とは、人間としての本来的な在り方やよりよい生き方を目指して行われる道徳的行為を可能にする人格的特性であり、人格の基盤をなすものである」とされています。人間は「人間(じんかん)」というように、人と人の中でしか生きていけません。子どもたちがよりよく生きるために、学校では道徳教育を行っていますし、家庭でも教えるべきことの一つとして道徳性があります。

例えば、「順番を守って並ぶ」というルールは、みんなが気持ちよく過ごすために必要なものですが、自然にできるようになるものではありません。幼い子どもは、ルールを守れず割り込みをする場面を見かけます。これは、他者を意識できていない発達段階では、仕方がないことです。順番を守るルールを教えるのは大人の役割です。ルールを守ることを知り、本人も快適に過ごせるようにしてあげる必要があります。最初は、「大人から言われたからそうする」でいいのです。次第にルールを覚え、トラブルを起こさなくなり、快適に過ごせるようになることが大切です。

さらに次の段階として、共感性に基づく判断ができるようになることが重要になってきます。「私がルールを守らないと、他の人はどういう気持ちになるか」「割り込みをしたら、された人はどんな気持ちになるか」などを考えることができ、自分の意思でよりよい選択ができるようになることです。

高齢化が進んだ社会では、大人になってからも「よりよく生きる」ことは重要なテーマです。以前は、発達心理学といえば子どもから青年期までが研究の対象でしたが、現代では、生涯を通して発達が続くという生涯発達心理学も注目を浴びています。よりよく生きるための基盤は、過去の経験、特に子どもの頃の経験が重要だと言われています。親は、いつまでも子どもについてあげることができません。小学生である今こそ、道徳性を育てるという視点で、子育てを見直していくことが大切だと思います。